

# Mitsui Fudosan

三井不動産 Story

地図をもっているのに迷ってしまうんですよ。  
そんな声が嬉しそうに聞こえるホテルがある。

京都中京区にオープンした三井ガーデンホテル京都新町別邸。  
1903年に建てられた風情ある京町家を  
どうやって現代にフィットさせるか。

ただ保存するだけではなく愛される存在として  
どう生まれ変わらせるか。

歴史への愛情を注いであえて小規模のホテルにする。  
それはここにしかない独自の価値になる。  
その価値はきつとひとを惹きつけるはずだ。

祇園祭の山鉾巡行がやってくると、  
この場所が特別な愛されかたをしていることがわかる。  
2階によみがえった虫籠窓が開放たれて  
目の前をゆく山鉾をうれしそうに眺める宿泊客たちの  
満足そうなその表情こそがそれだ。

歴史をただのテイストにしてしまいたくない。  
その土地が素敵な意味を持ち続けるために  
何を残すべきか。

歴史と未来の美しい関係をつくるために  
そういう発想こそが必要なのかもしれない。

京都に溶け込んで  
街のひとたちに  
愛されているこのホテルに、  
未来の風がひとつ吹いていた。

いい街には、物語がある。

